

初孫湊都の誕生に寄せて 〈天上天下唯我独尊を考える〉

加茂法話会 令和六年八月二十一日

一、「天上天下唯我独尊」の本来の意味



降誕会法要中に誕生仏に甘茶をおかけする様子 7月5日



6月15日誕生した初孫「湊都」
7月13日

二、道元禪師のお示し 大仏寺を改めて永平寺と称する上堂。〈寛元四年(1256)六月十五日〉
天は道が存することによって高く澄み、地は道が存することによって厚く安らかであり、人は道があることによって安らかであり穏やかである。それゆえに釈迦牟尼世尊はお生まれになると一手は天を指し、一手は地を指し、四方に七歩周行されて、「天上天下唯我独尊」と宣言されたのである。世尊のお言葉は、このように仰せられたのであるが、永平にも言うべき言葉がある。諸君に証明していただきたい。しばらくして言われた。天上天下、ここが永平である。

永平廣録 第一七七上堂

三、瑩山禪師のお示しから、お釈迦様のお誕生日にあたり、なされた説法で、「人人本と第二人なく、箇箇至尊に非ず」ということ無し」(洞谷記より)

四、「生まれた家 人生左右？」 令和三年十一月二十四日 新潟日報

子どもは親を選べない。人生の勝ち負けは家庭環境で決まる。そんな意味の言葉、親ガチャ
ガチャ：「何が出るかわからない」カプセル玩具の販売機やゲームでアイテムなどを入手する際の「何をゲットできるかは運任せ」のシステムの事。

五、私たち、一人一人生きるという大切な意味をもった大事な存在であるからこそ、お互いがそのことを認め合い、共存していく社会であってほしい。

東龍寺住職 渡邊宣昭 合掌